

評価方法や規格・基準等の標準化によりユーザの利益の確保及び公平な競争環境を実現した事例

環境技術等は、性能の良し悪しがユーザにとってわかりにくく、効果が疑わしい製品が出回ると、ユーザの利益や公平な競争環境が損なわれる。技術ではなく、評価方法や規格・基準等の標準化も重要。

光触媒の性能評価試験方法

問題点

- 公正な評価方法がなかった。
- ・優れた商品の差別化が困難
 - ・効果が疑わしい製品が出回ることによる市場全体の信用失墜リスク



ISOを通じた国際標準化

光触媒の性能評価試験方法に関する国際標準を、我が国から提案。(※1)

- ・セルフクリーニング機能 (水接触角測定法:09年7月発行)
- ・空気清浄機能 (NOx除去:07年9月発行)
- ・水質浄化機能
- ・抗菌 (09年6月発行)
- ・防かび機能

(※1) 審議中の案件あり。



- ・公正な計測・評価が可能となり、公平な競争環境が整備
- ・光触媒を用いた製品の国内外の市場が急速に拡大(※2)

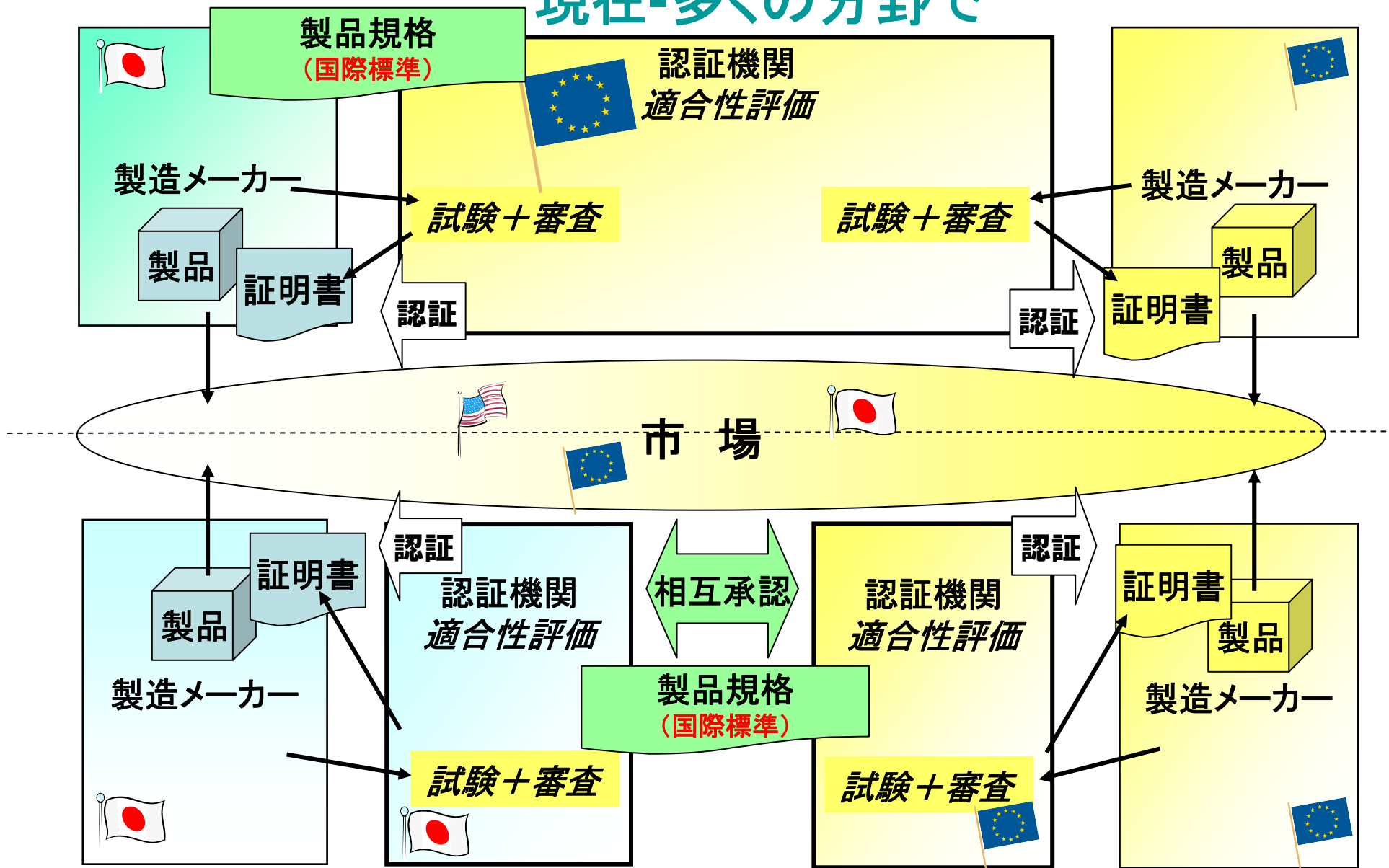
(※2) 世界市場規模 : 2009年、1000億円弱。2015年には4倍になるとの予測あり。

光触媒セルフクリーニング製品事例(ガラス)



出典: 経済産業省「光触媒セルフクリーニング性能評価方法の国際規格が発行」、2009年

現在-多くの分野で



あるべき姿